

公共図書館における愛着評価と地域性を考慮した図書館建築の関連 Attachment to Public Libraries and Effect of Architectural Design Considering Regional Characteristics

学籍番号：201521625

氏名：高山 有希

Yuki TAKAYAMA

情報化による社会的ニーズの変化とともに、図書館の在り方について「場所としての図書館」像が模索されている。これに加えて、図書館での内部環境やサービスの効率化に着目した従来の研究ではなく、「利用者の生活の中での図書館」という枠組みでの、利用者の感覚に近い研究が求められている。しかし、社会的な視点から図書館を研究する事例は少なく、社会的な視点からの研究であっても定量的に評価する指標の検討は充分に行われていない。他分野では、建築学や土木学の分野でも住宅や街づくりに対して同様の社会的な視点が求められており、社会的な指標としては「愛着」が用いられている。

そこで本研究では、愛着に着目して「公共図書館に対する愛着尺度の応用」、「愛着と図書館評価との関係性」、「地域性を考慮した建築の愛着への影響」の3つを検討し、図書館を地域社会の一部として評価・改善するための指標の構造を明らかにすることを目的とする。

研究対象として、地域性を考慮した図書館建築がなされている公共図書館を3館抽出し、来館者に対して質問紙調査を行った。質問紙調査の結果をもとに、共分散構造分析を行い、図書館の物理的・社会的環境評価と愛着の関係性を「愛着形成モデル」として検証した。モデルからは物理的・社会的環境評価から図書館への愛着の形成への有意な正の影響関係を示すことができた。また、「地域性と地域性を考慮した図書館建築の認知」も愛着の形成に対して有意な正の影響関係があることを示した。

本研究では図書館に愛着の概念を応用したことにより、図書館利用という直接的な関係ではなく、利用者が図書館に抱く愛着という間接的な関係についての客観的な指標を得ることができた。これにより、愛着の高低を評価できるだけなく、物理的環境評価項目、社会的環境評価項目の改善を通じて利用者の図書館への愛着を高める道筋を明らかにした。また、図書館建築学において愛着を形成する要因として「地域性を考慮した建築」の可能性を示すことができた。これらの成果により、図書館の建築計画から「利用者の生活の中の図書館」を検討することができる。今後は住宅や地域に対する愛着で効果が検討されている「協力意向」について、実際に図書館での効果を明らかにすることが課題である。

研究指導教員：歳森 敦

副研究指導教員：宇陀 則彦